

# 4 流通・販売・マーケティングの 視点

(土地改良長期計画における該当箇所)

**政策目標3** 所得と雇用機会の確保、農村に人が住み続けるための条件整備

〔 農村の多様な地域資源と他分野との組合せによって新たな価値を創出し所得と雇用機会を確保することが重要 (中略) 中山間地域をはじめとした農村に人が住み続けるための条件を整備することが重要 〕

# 4 流通・販売・マーケティングの視点 事例紹介

## (1) 京都府与謝野町スマートグリーンビレッジ確立協議会の取組 (主食用米のブランド化)

- 京都府北部の与謝野町は、日本海に面し三方を山に囲まれた稲作主体の中山間地域。
- 地域の特徴を踏まえ、町自ら有機質肥料を製造・販売、特別栽培米「京の豆っこ米」としてブランド化に成功。農業者の所得向上と自然循環型農業の確立を目指す。

### 背景

- ・ 絹織物「丹後ちりめん」の産地
- ・ 水稻栽培に適した地形・気候
- ・ 米価低迷により農業産出額が下落傾向



水が豊かな加悦谷平野



- ・ 地域で生産される豆腐の副産物である「おから」に着目



豆腐生産工程で発生する「おから」

- ・ 地域資源を有効活用し、環境に負荷を与えない自然循環農業を目指す

与謝野町自らが、製造設備を整備し、有機質100%の肥料「京の豆っこ」を製造・販売



京の豆っこ肥料製造施設



野田川を挟んで水田が広がる



施肥状況



項目	測定値	標準値
全窒素	0.15	0.10
全リン	0.05	0.03
全カリ	0.50	0.30
有機質	15.0	10.0
pH	6.5	6.0
陽イオン交換容量	15.0	10.0
陽イオン交換容量(有機質)	5.0	3.0
陽イオン交換容量(無機質)	10.0	7.0
陽イオン交換容量(交換性)	10.0	7.0
陽イオン交換容量(交換性有機質)	5.0	3.0
陽イオン交換容量(交換性無機質)	5.0	4.0
陽イオン交換容量(交換性有機質)	5.0	3.0
陽イオン交換容量(交換性無機質)	5.0	4.0
陽イオン交換容量(交換性有機質)	5.0	3.0
陽イオン交換容量(交換性無機質)	5.0	4.0

土壌分析

原料：おから、米ぬか、魚のあら



特別栽培米「京の豆っこ米」

「環境にやさしい良食味米」  
としてブランドを確立

## 4 流通・販売・マーケティングの視点 事例紹介

### (1) 京都府与謝野町スマートグリーンビレッジ確立協議会の取組（栽培技術の継承）

- 特別栽培米「京の豆っこ米」の品質・収量の維持のため、熟練農業者の栽培技術をデータ化・可視化する必要。
- このため、情報通信技術の活用により、ほ場に端末を設置、栽培に関するデータを収集・蓄積。可視化されたデータの活用により、栽培技術をマニュアル化、熟練農業者から若手農業者への技術継承を図るとともに、新規就農者の栽培技術習得を支援することを目指す。

#### 栽培データ等の収集、蓄積



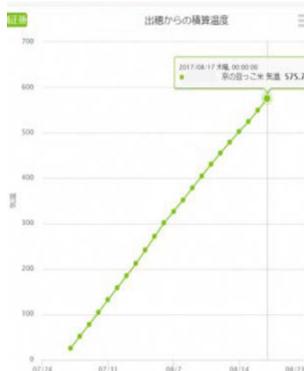
環境データ測定機器

情報通信技術を活用し、土壌温度、水分量等に関するデータを収集・蓄積



#### 農作業 (高度な栽培技術) のマニュアル化

- ・ 土壌分析を行った上での施肥設計
- ・ 土壌条件、気温、湿度等とリンクした営農作業
- ・ 栽培米の成分分析（食味等）等



栽培環境データ

#### 期待される効果

- ・ 熟練農業者から若手農業者への技術継承
- ・ 新規就農者の栽培技術習得の支援



#### ICT機器設置位置



町内15か所に設置(他の作物も含む)

# 4 流通・販売・マーケティングの視点 事例紹介

## (1) 京都府与謝野町スマートグリーンビレッジ確立協議会の取組 (農産物流通の効率化・需要創出)

- 稲作主体の農業者の所得向上のため、今まで家庭内・集落内で消費され、市場に出回ることのなかった野菜類に着目、直売所での販売拡大を目指す。
- 少量生産の野菜類を個々の農業者が直売所へ持ち込むのは負担が大きいことから、情報通信ネットワークを整備し、集荷、運搬等の物流効率化に活用。

稲作農家

家庭内・集落内で消費されていた野菜類

市場に出回ることのなかった作物の商品化

直売所での販売・新たな所得機会の確保

産地直送

購入

直売所

よさの野菜の駅

農産物直売所 (★)



個々の農業者が直売所に運搬するのは大きな負担

情報通信ネットワークを活用し、物流を効率化